

# もっとうちを知りたい ふるさと

49

## 上山田温泉の発展に 尽くした人々

「戸倉温泉」と「上山田温泉」は共に千曲川左岸に位置していることから、便宜的に「戸倉上山田温泉」と呼称されています。

戸倉温泉を開発した坂井量之助は有名な人物です。では上山田温泉の開発に携わった人は、どんな人々だったのでしょうか。

上山田の温泉を発見したのは若林才兵衛という人物です。才兵衛は半農半漁を生業としており、明治元年2月に千曲川で魚釣りをしている時に足裏に微温を感じて掘ったところ、温泉が湧いたと伝わります。才兵衛の住む場所には、



戸倉上山田温泉の象徴でもある城山

かつて湯の窪と呼ばれる鉱泉があったと才兵衛は古老から聞いていたようです。鉱泉の事を知っていたからこそ、才兵衛は掘って見たのでしょう。年寄りの話は聞いておくものだ、この例からもわかります。

戸倉温泉は、明治26年に開湯されます。上山田側も明治10年から宮原治五兵衛・吉池百作・西沢保高・若林三治郎ら有志が金を出し合い掘削を試みますが、洪水のため失敗続きでした。そんな中で上山田の人々を奮い立たせたのは、高野直次郎という人物の歩みでした。

直次郎は明治元年に戸倉の大西河原で温泉を発見した人物です。直次郎は温泉掘削を志して、洪水に遭っても、たった一人でその努力を続けます。2度に亘って県に掘削許可を求めますが、いずれも否決されて、直次郎の夢は果たせませんでした。

しかし『上山田町史』には「直次郎の努力が上山田の温泉開発意向に感奮を促した大きな原動力となった事は確か」

と記されています。洪水に負けず努力を続ける直次郎の姿は、上山田の人々には尊く映っていたのでしょう。

失敗続きの掘削作業は宮原正太郎に受け継がれます。正太郎は吉池百作と新潟県の石油掘削や鉄工所へ視察に赴き、大きなキリが螺旋回転して穴を掘るといふ「軽便削井機」を考案しますが、技術不足のため、キリを地中に落とし、掘削は失敗します。

しかし、上山田の人々は諦めることをしませんでした。掘削作業を手伝い、金を出し合い、地元の波間科神社のみならず武水別神社や別所の北向観音まで赴いて、作業の成功を祈願したと伝わります。「一念岩をも通す」の言葉通り、明治36年に削井機は大いに喰り、熱泉を掘り当てて4月22日開湯式が行われました。

ある女性が父親の言葉として「上山田の人間は土である」と言いました。砂は強く握っても手からこぼれますが、土は握ると固くなります。

水と緑と潤いのある公園にある碑



碑側面には「歴史を切り開いた人々の栄誉を讃える」とある



温泉掘削、温泉場開発に携わった人々の名前

上山田の人間が事にあたるに際し、一致団結する気質を表現した言葉です。この温泉開湯に関わる話が、それをよく物語ります。

若林才兵衛・高野直次郎・宮原正太郎はもちろんのこと、生粋の上山田人が決してあきらめることなく明日を見据え、土となつて出来上がったのが「上山田温泉」といえます。

### 【参考文献】

『上山田町史』

『上山田の風土』

『上山田温泉株式会社創立百周年記念誌』

上山田 西澤嘉範